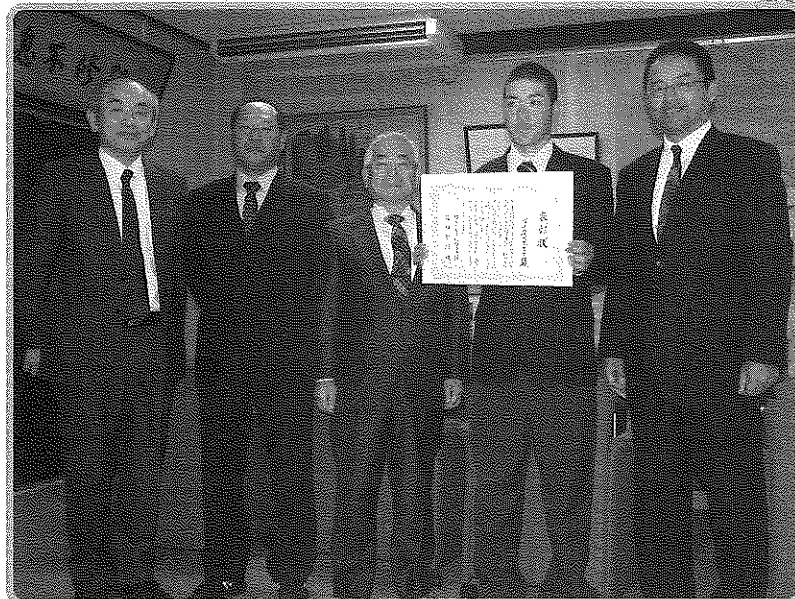




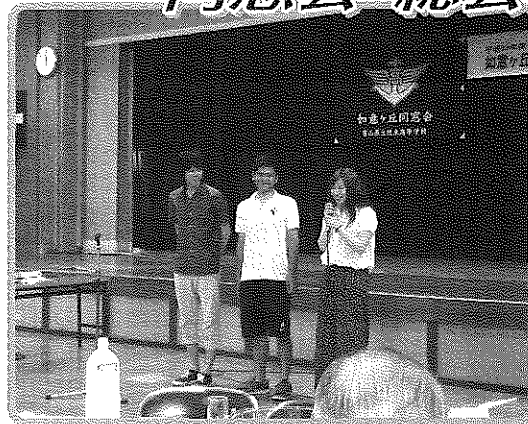
如意ヶ丘

〈発行〉平成23年12月1日

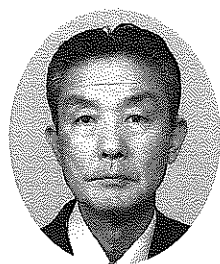
祝 第84回選抜高校野球大会 『21世紀枠』富山県推薦校に決定!



同窓会 総会



ごあいさつ



会長
牧 亨

本年も余すところあと1ヶ月となり、寒さも日毎厳しくなってきましたが会員の皆様にはご健勝にてお過ごしのことと拝察申し上げます。

2月22日のニュージーランド地震により、富山外国語専門学校生の多数が犠牲になる県民にとっては衝撃的な災害が発生しました。その悲しみも癒えない3月11日には東北地方において想像を絶する大地震・大津波そして福島原発放射能汚染が発生し、多くの方々が犠牲になられました。ここに被災地

の皆様には心よりお見舞い申し上げますと共に、一日も早い復興をお祈り申し上げる次第です。災害発生のおとんどない、日本一住みよいと言われる富山県で生活できることに私達は感謝で一杯です。

さて、生徒たちは国際交流科校として、中国・韓国・ロシア・アメリカとの派遣・受入などホームステイを通じ交流事業等を活発に展開し、将来のグローバル社会に適応できる人

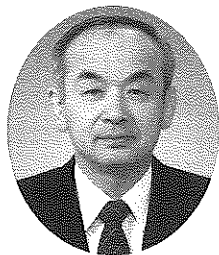
間形成のための貴重な体験を実践しています。

伏木港を擁する地元では、数年前から本校の国際交流事業に対し、学校と地域が一体となって協力・支援ができる組織づくりが検討されていました。ここに漸く関係者の努力により、地元有志はじめ企業代表、学識経験者、同窓会員の方々30名余の委員構成で7月26日に『伏木高等学校支援推進委員会』が設立されました。

事業内容として、学校と支援推進委員会が学期毎に年3回情報交換の場を持ちながら、今後の交流事業をはじめ諸活動の支援と協力をしていくことが取り決められました。

今月中旬に中国・韓国の学生がそれぞれ約30名、約40名、総勢約70名が同時に本校を訪問・受入することが予定されています。支援委員会ではこれを機会に、地元をあげて合同歓迎式を12月13日(火)午後5時30分から、伏木福祉会館において開催することが計画されました。はじめての試みであり不安もありますが、是非成功させて今後の支援活動の第一歩としたいものです。今後とも会員一同のご協力をお願い申し上げます。

年末の折、会員皆様のご健康とご多幸をご祈念申し上げます。



校長
宮崎 豊

一面写真の通り、伏木高校が来春の第84回選抜高校野球大会の「21世紀枠」で富山県推薦校に選ばれました。これは野球部、本校にとってたいへん名誉なことであり、如意ヶ丘同窓会をはじめ、関係の皆様と喜びを分かち合いたいと思います。今回の受賞を励みにさらに大きな目標に向かって、頑張っており、ご支援の程、よろしく願っています。

大学4年間の東京で生活を除いて、砺波地方に生まれ育った者にとっては、包容力のある海は大変魅力があります。こうした思いを胸に、豊田久正前校長との引継ぎのため伏木高校を訪れた私を廊下で見つけた生徒たちは元気よく挨拶してくれました。本校のように海に近く眺望の優れた高台に建つ学校は全国にもまれです。その海拔22mの高台の如意ヶ丘から見える真っ青の空と海、雄大な立山連峰は私を温かく歓迎し、心を穏やかにしてくれます。また、これから冬になり空気が澄むと一段と迫力ある景色が見ることができると心がわくわくしてきます。このような素晴らしい学校に勤務していることを光栄に思います。

本校の特徴的な取組みは、国際交流でアメリカやロシア、中国、韓国に友好校を持ち、1年次はネイティブの講師によって中国語、韓国語、ロシア語を体験し、2年次からは、興味のある言語を第二外国語として学習し、全員がその言語の国へ語学研修に出かけホームステイをすることです。また、研修先の高校生も来校し生徒の家庭にホームステイします。この交流事業は、保護者や同

窓会の皆様などに多大のご支援ご協力を得て成り立っている事業であります。生徒にとっては、環日本海の国の人たちと交流ができ、多くの刺激を得ることができる貴重な機会であり、この交流を通して生徒たちは大きく成長します。

もう一つは、平成17年に国際交流科となったことを契機に「スーパーモラルハイスクール」を標榜し、あいさつ、服装指導などの生徒指導に熱心に取り組んでいることです。生徒は制服をきちんと着こなし、膝小僧が見えるスカート丈の短い女子生徒がいません。また、廊下では「おはようございます」「こんにちは」と気持ちよい挨拶を受けます。時々、早朝に生徒玄関で挨拶を交わすのですが、生徒たちがしっかりと制服を着こなし、校長として気持ちよい一日がスタートできます。生徒の列が途切れると立山連峰に目が行き、中でも中央に尖っている剣岳は、昔数十回、登山したことがあり、その当時を思い出すこともあって、早朝の挨拶指導はなかなか楽しいものになっています。

終わりに、県内随一の国際交流科である本校の特色を生かし、さらに元気あふれる高校したいと考えていますので、如意ヶ丘同窓会会員の皆様には今後ともご支援を賜りますようお願い申し上げます。

関西支部より

事務局長 山岡 巖 (伏高16回卒)

去る9月25日(日)午前11時10分から大阪なんばの「道頓堀ホテル」に於いて、同窓会本部より山下監査役、母校より宮崎学校長を来賓にお迎えし、総勢32名の参加で、第15回如意ヶ丘同窓会関西支部総会が開催された。

冒頭、全員起立し校友物故者・東日本大震災で亡くなられた方々に対し黙祷し、ご冥福をお祈りしました。杉林支部長の支部設立15周年を迎えたことへの感謝の挨拶に続き、山下監査役からは県立高校の再編統合が検討されている中において国際交流校として生き残れるよう、牧会長はじめ関係各位が最大限の努力をされている事、学校長からは我が後輩達が全国高校野球選手権富山大会・秋季県高校野球大会で大健闘・大活躍したこと等のお話をし、議事に入



った。支部長を議長に選出して始まり、平成22年度の事業報告・収支報告・監査報告が、山岡事務局長・奥会計・川田副支部長(兼)会計監査から報告と説明が有り、続いて23年度の事業計画案・収支予算案・役員改選案が上程され、それぞれ満場一致で決承認された。テーブル毎に出席者全員による自己紹介を経て、平成23年度の活動がスタートした。

山下監査役より、関西支部への活動助成金が杉林支部長に授与され、一同拍手で謝意を表した。記念撮影の後、母校への誇りを忘れず、会員の拡大・会の発展に尽くす事を決意し総会は終了した。

懇親会は、宮崎学校長の乾杯の音頭で開宴となった。畑三姉妹(ひさの高59卒・めぐみ高62回卒・まりな2年在校中)の華麗なるパントワリング・マジシャンの竹本照子女史(高14卒)のすばらしいマジックショー等があり、各自昔話に花を咲かせ、監査役・学校長は各テーブルの支部会員と親しく語られ、和やかな懇談の出来たことは出席した事の最良の喜びであったことである。やがて人気の「とよま名産争奪ジャンケン大会」に移り、そして喉に自慢のある方々の歌を聴き、3時間半にも及んだ懇親会もやがて和やかな雰囲気の中で終幕を迎えた。

BGMから流れる伏木商業学校・伏木高等学校の校歌に合わせ、全員が肩を組みながら盛り上がった気持ちをそのままに校歌斉唱。山下監査役の関西支部の発展と出席者全員の健勝を祈念しての万歳三唱、川田副支部長の閉会の挨拶・恒例の「一本締め」で、懇親会はめでたく終了した。昔の交友を温め、時間の経つのを忘れて早秋の集いの余韻を楽しんだのは云うまでもない。



総会報告

伏木高校如意ヶ丘同窓会

如意ヶ丘同窓会定期総会は、7月9日(土)、16時より伏木福祉会館で開催されました。山本健一副会長の進行のもと、同窓会物故者に対して黙祷が捧げられたあと、牧亨同窓会長、宮崎豊校長のあいさつがありました。議事は、議長を兼任した牧会長によって進められ、平成22年度の事業報告、会計報告、監査報告をはじめ、平成23年度の同窓会事業計画、会計予算等、全ての議案が満場一致で承認されました。

続いて、生徒による中国・韓国での語学研修の報告があり、ホームステイを通してたくましく成長している生徒の様子に、会場から盛大な拍手が送られました。

また、卒業生漫才コンビ『ルポ・イーハース』による漫才が披露されました。

その後の懇親会は、終始和やかな雰囲気が進み、お互いに旧交を温めました。最後には、声高らかに伏木商業学校、伏木高校校歌を歌いました。

—COLUMN—

会員は、高校の再編統合が検討されている状況下であることを認識し、会員相互の連携をより深め、この苦慮に手を差し伸べるべく方策を見つけないもの。

(1) 関東如意ヶ丘同窓会、役員会の施設見学

平成23年2月2日(休晴天)に恵まれた小春日和、日本の金座日本銀行と併設の貨幣館及び、早稲田大学キャンパス内の會津八一記念博物館を訪問、以下簡略レポートします。

①日銀本館と貨幣館

日銀本店…我が国金融の中核機関である日銀は、江戸時代の金座(金貨鑄造)のあった場所に明治29年(1896年)にルネサンス・バロックの混合式・花崗岩造りで建設、今なお保存され圧巻である。新館は昭和48年に建設され地上9階地下5階で東洋一の大金庫を自負している。

貨幣館…日本銀行創立100年を記念して1982年にオープン、貨幣4,500点、東洋の貨幣コレクションとしては世界一の博物館です。また日本の貨幣の歴史を時代ブロックごとに写真・地図・実物を解り易く展示説明されています。

②會津八一記念博物館

本会、丸山副会長の亡父(富岡重憲氏)蒐集901件と膨大な作品の一部(日本のやきもの)を鑑賞。個々の優れた作品もさることながら、その蒐集力の眼力・努力に一同深く感銘を受けて記念館を後にしました。

(2) 関東如意ヶ丘同窓会総会(第15回・平成23年度)開催延期のお知らせ

千年に一度と言われる3月11日の東日本大震災は、ご存知の通り想像を絶する災害で、被災後、日々の経過につれその実態が、震災・大津波・原発放射能汚染・風評被害等々が明らかになり、有り余る悲惨さに言葉を失うばかりです。「がんばれ東北」・「がんばれニッポン」と広く世界中からの支援を戴き、日本の再起を推進させながらも、その復旧・復興は現在に至っても不透明な日々が続いています。上記の観点から6月3日、本会役員会で関東地域での会員の皆様の被災実態の情報収集に努めた結果、現実に本会会員並びに関係者の中に被害に遭われている方々の情報が判明いたしました。併せて、ニュージーランドでの富山市外国語専門学校研修生の同窓OG(金丸佳世さん)の人生途中で夢を砕かれた思いを抱いた現実があります。会として、この現実を踏まえ、何が出来るか、何をすることが大切か、検討の結果全員一致で総会の延期が決定しましたことをお知らせし、ご理解とご協力をお願い申し上げます。

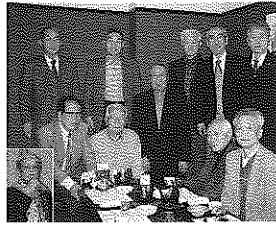
◆関東如意ヶ丘同窓会総会/日時・場所
 平成24年4月21日(土) 12:00~16:00
 アルカディア市ヶ谷(私学舎館)
 TEL 03-3261-9921
 〒102-0073 千代田区九段北4-2-25

如意ヶ丘クラブ礼讃

紺谷 益三 (北高3回卒)

終日東日本大震災のニュースだけがテレビで放映される3月19日(土)、如意ヶ丘クラブの会合が富山の高志会館で開かれた。予定された10人の会員は、午後五時の定刻には既に揃い和風レストラン千歳の開門を待った。懇親会に入る前に、大震災で亡くなった方々の冥福と一日も早い復興を願って、全員で黙祷をした。次いで予め準備しておいた義援金袋を回し、それを日本赤十字社富山県支部奉仕団委員長の山下和夫君に託した。

このクラブが誕生したのは、昭和24年(1948年)新制高校として発足して間もない高岡北部高校1年の三学期、卒業生を送る予餞会で男子の有志が集まって演劇を披露したのが切っ掛けだったと記憶している。教室でのグループの結成は、高岡高校でリンチ事件があった後だけに教職員間でも問題となったが、当時担任の尾崎定直先生を顧問として選び十数人のメンバーでスタートした。



クラブ活動の一つは機関紙を輪番で発行すること、両手を真っ黒にしながらガリ版刷りをしたことが思い出される。二つ目は野球チームを作り他のチームと試合をすること。三つ目はハイキングをすること、尾崎先生の引率で石動山(せきどうさん)に登り大きなサンショウウオを見て驚いたときのことが記憶に残っている。

クラブの活動は卒業後も続いた。大学に進学したのは二人で、多くは十条製紙、東化工、不二越、富山地鉄等の地元企業に就職したこともあって、不定期ではあったがハイキングや飲み会などで集まった。数年前に北九州旅行をしたことが昨日のように想い出される。

クラブで誇りにしたいのが数人いる。歯科技工士として忙しい中富山県の技工士会をまとめその発展に寄与したとして藍綬褒章を受賞した稲葉藤雄君・日本赤十字社の中央委員長を勤め上げ、今も富山県奉仕団の委員長として奉仕活動の陣頭指揮を取っている山下和夫君・高校教員として伏木・氷見・高岡の高校で教鞭をとり、最後は高岡高校で教頭の重責を果たした太田良成君・読売新聞社を定年退職後、趣味と実益を兼ねてカラオケ教室を開き今も若々しい美声の林了映君、その他町内会長や地域の連合会長として活躍している会員がいる。

このメンバーは飲みだすと、よく高校時代の追試験のことや、試験勉強を口実に玉川町のK君の二階に集まって遊んだ時のこと等が手振りを交えて再現され尽きることが無い。このグループの高校時代は決して褒められた存在でなかったかもしれない。しかし今齢を重ね、互いに往時を語り笑える仲間が居ることが、何より無形の財産であり宝であるように思える。

齢78、傘寿まで生きてきた。クラブ結成以来62年、この間亡くなったのは坂本義信君一人、よくもここまで来れたものだと思う。人生は只一度の招待、一回一回の顔合わせを大切にしていきたい。

母校の応援歌を拝借して

野田 明 (伏高14回卒)

“如意が丘に 朝日が昇る 昇る朝日の 伏高健児 高商がなんだ 富商がなんだ あとはどうなる おいらの勝利…”獅子舞の振り付けで伏木高校の先輩が作られた応援歌を高校野球で誇らしげに、手拍子で応援したものです。その応援歌が市川市の小中学校、千葉県の高校の運動会で活用されています。

私が27歳のとき、赴任先の市川市立八幡小学校の運動会で応援の係になりました。何か心に響き、みんなのやる気を引き出すにはと考えて、母校の応援歌を拝借したのです。“八幡の森に 朝日が昇る 昇る朝日の 八幡の健児 元気で行こう 明るく行こう ファイトでいこう 負けずにいこう 大きく拍手 小きく拍手 大きく拍手 小きく拍手 大きく拍手 拍手 拍手 拍手~ フレーフレー赤(フレ、フレ、赤) フレーフレー白(フレ、フレ、白)” () はみんなで互いに負けない大きな声を出して競います。

八幡小学校では、40年経った今でも運動会の応援歌として高らかに歌われています。そして、この小学校から転勤された先生方が転勤先の小学校で、その小学校にあった節をつけて運動会で使うのです。この応援で運動会がしまるというわけで、どんどん広がっていったのです。私は、八幡小学校に9年勤めていて懇親会の幹事もやっていたので、学校の新年会、忘年会、運動会の反省会の最後に「八幡の森」で締めていました。また、先生方の結婚披露宴でも披露して喝采を浴び、幅広く活用していました。

私の住む近くの中学校に偶然、高校の後輩が勤めていて、生徒たちが近くの県立高校に進学して生徒会で母校の後輩の先生から受け継いだ「如意が丘に」を応用して運動会で広めました。

どうでしょうか。如意ヶ丘同窓会総会懇親会、関東支部、関西支部の宴の最後の締めとして復活させませんか。気力が蘇り、まだまだやるぞという気持ちになって家路に着かれるのではないのでしょうか。

“伏木高等学校『地域支援組織』結成について”

事務局 山下 利一 (伏高15回卒)

平成23年7月26日(火)、伏木福祉会館に於いて「伏木高等学校支援推進委員会」の設立総会が開催され、伏木唯一歴史のある伏木高等学校(国際交流科)が直面している問題、並びに地域の活性化も踏まえ、地域の方々のご協力の下、承認された。

◆名称 ◆構成
 『伏木高等学校支援推進委員会』 諸団体13団体、法人14法人、有識者8名

◆役員
 代表：山崎 孝之(商14) 副代表：大黒 幸雄(商16)、吉原 節夫(北3)、濱谷元一郎(北9) 事務局長：山下 利一(伏15) 会計：牧 亨(伏16)、山 孝之(伏16)

〈追伸〉如意ヶ丘同窓会、地域の方々の協力により12月13日(伏)伏木福祉会館に於いて「中国、韓国学生受入歓迎会」を行なう予定です。

平成22年度の国際交流事業を終えて

富山県立伏木高等学校 国際部長 村中 秀一

国際交流科の本校は、生徒全員が普通教科の他に、外国語では英語に加えて第2外国語として環日本海諸国の中国、韓国、ロシアのいずれかの国の言語を学ぶとともに、生徒全員が2年次の3月までに、米国、中国、韓国、ロシアの4ヶ国にある友好校等のいずれかに語学研修に出かけてホームステイや学校での授業体験、文化交流をしています。また、中国、韓国、ロシアの友好校の生徒たちを毎年本校に招き、本校生徒の家庭でホームステイの受け入れをしていただいで交流するという相互交流をしています。

平成22年度の国際交流事業において、中国、韓国、ロシアの友好校等からの受け入れ生徒総数は116名でした。その受け入れに際し、延べ104家庭のみなさんにホストファミリーとして協力していただきましたことに、改めて感謝申し上げます。

7月下旬に、中国大連市第十二中学と韓国清明高等学校から訪問団が本校を訪れ、3ヶ国交流をすることができました。また、9月下旬から10月にかけて、ロシアウラジオストクのガルモニア校から訪問団が来校し、交流をすすめることができました。一方、こちらからの語学研修は、朝鮮半島における情勢の変化や中国大連市教育局の学校施設修理計画の影響で、12月に予定していた韓国語学研修が2月に、中国語学研修が3月にそれぞれ延期となりましたが、何とか実施できました。また、東日本大震災の影響で、3月に予定していたロシア語学研修(成田空港発着)は、誠に残念なことに中止せざるを得なくなりました。なお、同じく3月に予定していた第12回米国姉妹校語学研修は、中部国際空港発着の計画でし

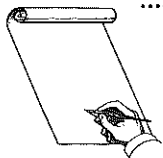
たので、実施することができました。震災直後の渡米ということで、現地フォートウエインでは、とても関心が高まり、現地のマスコミ等の取材を受ける機会を得た貴重な語学研修となりました。

私は、3月に団長として中国大連市第十二中学を訪問しました。これまで米国へは3回団長として、語学研修の引率をしましたが、国際交流事業(語学研修の計画・渉外関係、友好校の受け入れ等)を担当する国際部長(国際交流科主任)としての私にとって、実際に環日本海諸国の友好校への訪問は初めてでありました。現地での交流の様子を自分の目で確かめ、計画と実際の交流の場面での諸事情・諸問題を把握することができて、とてもよかったと思います。今後の語学研修の実実施計画に役立てていきたいと考えています。

本校が実践している友好校との国際交流(相互交流)においては、相互に連絡を取り合うことはもちろん大切なことですが、自然や政治的な諸問題に関わって、計画変更を余儀なくされたりするので、臨機応変の対応が常に必要となります。

若い感受性の強い時期に、世界の人々とふれ合い、「国際感覚」というものの一端を身につけることのできる本校の生徒諸君は本当に幸せだと思います。本校でのこの貴重な体験は、必ず生徒諸君の将来に大きな糧となっていくはずですよ。

最後に、この国際交流事業が、本校の同窓生の皆様によって積み上げられた「国際教育基金」によって支えられているということも忘れないでほしいと思います。改めて如意ヶ丘同窓会の皆様に深く感謝申し上げます。



同窓生 寄稿欄

教育実習を終えて

神田 景子 (伏高60回卒)

今年度5月下旬から4週間、伏木高校で教育実習を行わせていただきました。自分が3年間学んでいた場所に違った立場で戻ってこれられるという楽しさと、本当に4週間もやっているのかという不安が入り交じっていました。

学舎というのはいつの時代もそんなに変わらないものですね。朝、たくさんの生徒が友人と共に登校し、授業を受け、放課後は課題をしたり部活をしたりして帰って行く。私はそうした中で、教員はどんな立場であるべきなのか、生徒たちのためにどれだけ考えて動いているのか、授業の他にもたくさん業務をこなしている先生方をみて学ばせていただきました。私が見ることができたのは、先生方の仕事のごく一部ではあると思いますが、生徒のための想いや細かい配慮、仕事に対する責任感を垣間見ることができました。また、人に教えることの難しさを痛感しました。単元について学習し理解し、自分でストーリーを作るという作業は非常に大変でした。しかし、同時に教えることの楽しさも感じることができ

ました。

私は金沢大学で物理学を専攻しています。友人と励まし合い、先輩や先生方のご指導により大学生活のほとんどを充実したものにできました。今ではより専門性の高い勉強・研究を行っています。まだしばらくは大学生、大学院生として学び続けませんが、勉強の仕方やコミュニケーションの取り方など、実習中に学んだことは後の大学生活で十分に生かすことができていると思っています。

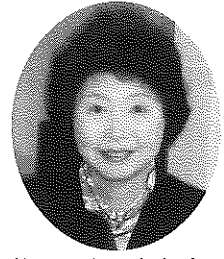
実習中にお世話になった先生方、生徒の皆さんのおかげで大変有意義な4週間を過ごすことができました。本当にありがとうございました。末筆ながら、母校である伏木高校の更なる発展と飛躍を期待しております。



三北 回卒 山代 山下和夫	三北 回卒 富山大学 名譽教授 吉原節夫	八北 回卒 富山大学 名譽教授 林秀治	八北 回卒 富山大学 名譽教授 松長一雄	九北 回卒 富山大学 名譽教授 布野彰一	十伏 回卒 富山大学 名譽教授 戸澤克行	十伏 回卒 富山大学 名譽教授 牧野貞夫	十伏 回卒 富山大学 名譽教授 上野宏芳	十五伏 回卒 富山大学 名譽教授 中山勝儀	十五伏 回卒 富山大学 名譽教授 山下利一	十六伏 回卒 富山大学 名譽教授 牧亨	十七伏 回卒 富山大学 名譽教授 神島高志
------------------------	----------------------------------	---------------------------------	----------------------------------	----------------------------------	----------------------------------	----------------------------------	----------------------------------	-----------------------------------	-----------------------------------	---------------------------------	-----------------------------------

近年、小学校児童の安全な登下校を見守る「子ども見守り隊」や、まちの安心・安全対策のための「安全パトロール隊」など、活発な活動が展開されていますが、私は、ひたすら伏木高校の発展を願い、常に高い関心を寄せている、さしづめ「伏木高校応援隊」の一員というところでしょうか。

同窓会員の皆様、お元気ですか？ 関東如意ヶ丘、関西支部の皆様方、随分とご無沙汰しております。同窓会の定期総会がそれぞれに盛大に開催されておりますこと、また、関西支部の皆様方が母校をお訪ねくださり、懐かしい校舎の変容ぶりに驚嘆されたこと等々、会報を懐かしくそして大変嬉しく拝読しています。



ところで、伏木高校が伏木富山港の立地を活かし、特色ある高校を目指して「国際交流科」に学科改編されて7年目。幸い、卒業生たちは、この学科ならではの進路先を決めているとのこと、大学を志した第一期生は来春晴れて社会人となって巣立っていきます。昨今の厳しい社会情勢にあって、どのような内定状況か気になるところですが、グローバルな社会を生き抜く逞しい人材育成を教育目標に掲げ、研修棟ラ・メールヤル・シエールの名にその夢を託した学舎で培われた生徒たちのこと、誇りと自信を持って国際社会に羽ばたき、社会貢献してくれることとその日を待ち遠しく思っています。

ところで、私は、この三月末で職業生活に終止符を打ち家庭に入りました。同時に地域デビューをしました。小さな校区の婦人会長を担っています。「〇長」というポストはいささか体験してきたはずですが、地域社会は学校現場と違い、「絆」を深めることや自分の思いを十分に反映できないもどかしさを感じています。伏木高校での私の学校経営について、いかに周囲の方々のご理解とご協力に恵まれていたかを思い知らされています。

地元伏木住民の学校へのあつい期待感、同窓会役員幹部の即決即行の行動力、保護者の愛情溢れるご支援、そして、ともに知恵を出し合った教職員と力みなぎる生徒たち、私には全てが幸せな出会いでした。思えば、忘れがたいハプニングに遭遇ということもありましたが、今は唯、「感謝」の気持ちで一杯です。とわに「伏木高校応援隊」の一員であることをご報告し、会員皆様方の今後益々のご健勝とご活躍を祈念申し上げます。

つかめ!! 甲子園

野球部後援会長 戸澤 克行 (伏高10回卒)



今年の伏木高校野球部は夏の甲子園大会を目指す県予選、秋の北信越大会県予選において、ともに力を発揮し、県下に我が校野球部の力を示した。それが今回の21世紀杯、富山県代表推薦につながった。

まず、夏の県大会では2回戦からの登場で、緒戦は富山高専本郷と城光寺球場での対戦となった。当日は薄曇りで真夏としては涼しく、多くの在校生・同窓生が応援に訪れていた。試合は初回から我が校野球部は活発に攻撃し、投げても先発の増本君も良く投げて、一方的な展開となり、11対1(5回コールド)と快勝した。そうした試合内容もあり、応援団も大きな声で、気持ちよく声援を送っていた。

そして迎えた対新湊戦は初回に1番キャプテン柳瀬君の2塁打を足掛りに4点を先制する、幸先の良いスタートとなった。しかし、相手はその後甲子園大会に出場し、古豪平安高校を破った、新湊高校であり、すぐに反撃され、その後は点を取っては取られるという苦しい試合となった。その中でも本校野球部は、スタンドの応援と一体となり、熱戦を展開した。そして6回ついに6対11と逆転されてしまった。ここで、日頃の練習の成果が発揮され、7回表、すかさず5点のビハインドを取り返すという粘りを見せた。その時のスタンドは当日の気温を大きく上回る熱気であった。その後再度3点を追加され、力及ばず、11対14で惜敗したが、「あの新湊高校」から大量11点を取ったのは甲子園大会を含めて東洋大姫路高校と伏木高校だけであり、県下にその力を印象付けた。

その良い流れを受け継ぎ、秋の新チームも大いに活躍し、秋季大会では1回戦では夏の大会ベスト8の高岡西高、2回戦呉羽高、3回戦水橋高をいずれも接戦のうちに破り、ベスト8、準々決勝に進出するという成績を残した。それは日頃の練習、体力作りの基本が大切であるということが、公式戦に、流れに乗って、確実に表れたものである。また、中川監督、浜木部長の野球の技術だけではなく、精神面も重視した指導の賜物である。その「流れ」の中から今回の「推薦」も出て来たものである。多くの後援会員が期待する、県大会を勝ち抜いての甲子園出場も近く来ていると強く感じるものである。

十七回卒 高専事務局長 中島貞之	十八回卒 高専代表取締役 山口正志	二十六回卒 高専代表取締役 小泉哲二	二十六回卒 高専代表取締役 澤武博	二十七回卒 高専代表取締役 井上人士也	二十七回卒 高専代表取締役 島田博司	三十二回卒 高専代表取締役専務 松嶋浩二	三十四回卒 高専代表取締役 数田昭久	三十七回卒 高専代表 条谷正利	四十回卒 高専代表取締役 宮越一郎
-------------------------------	--------------------------------	---------------------------------	--------------------------------	----------------------------------	---------------------------------	-----------------------------------	---------------------------------	------------------------------	--------------------------------



～平成22年度 進路状況～

進路指導部長 高澤 真穂美

国際交流科の第4期生(114名)の進路状況については、国公立大11名、私立大36名、国公立短大3名、私立短大23名、専門学校46名、就職9名となっています。

第1期生の国公立大学合格者は9名、2期生、3期生とも4名ずつでしたが、4期生は11名と大躍進を遂げました。

国公立の内訳は、富山大学・医学部看護学科、工学部2。金沢大学・国際学類、数物科学類。新潟大学・人文学部。茨城大・理学部。山梨大・工学部。富山県立大学2、前橋工科大学です。理系学部で健闘しました。

私立大学合格者数は昨年の61名から激減の36名でしたが、これは景気の低迷を反映し受験校の数が減ったためです。この影響は進路先地域別動向にも現れており、大学短大進学者58名のうち県内進学者が23名(39%)、石川県13名(22%)、関東方面5名(8%)、中部地区11名(19%)、関西方面4名(7%)となっています。また、専門学校進学者の50%が県内となっており、資格志向、地元志向がますます強くなっています。

就職状況も厳しいものがあり、公務員志望者が増加しています。

今年度の大学入試センター試験志願者は73名が出願しており、今後の成果に期待をしているところです。

同窓会の皆さまには、本校生徒の進路実現のために、今後一層のお力添えをよろしくお願い申し上げます。

平成22年度 進路別現役合格者数 (延べ数)

	人数	主な進路先
国公立大学	11名	金沢2・富山3・富山県立2・新潟・茨城・山梨・前橋工科
私立大学	36名	立命館・京都造形・関西外大・愛知学院・名古屋学院・名古屋商科・日本福祉・中部・中部学院・桜美林・フェリス学院・立正・帝京平成・富山国際・北陸・金城・金沢学院・金沢星稜・金沢工業・福井工業 など
私立短大	23名	富山・富山福祉・大月・長野県立・岐阜市立女子・金城・関西外語 など
専門学校	46名	富山県立保育・高岡市立看護・高岡市医師会看護・厚生連高岡看護・富山市外国語・富山県技術・富山理容美容・石川理容美容 など
就職	9名	高岡市農業協同組合・立山電化工業・株式会社クラタニ・三菱硝材(株)・自衛隊・富山県警察官・愛知県警察官 など

部活動報告

◆◆◆平成23年度 部活動の記録◆◆◆

〈陸上部〉

富山カップ陸上競技大会 女子やり投 第3位 澤井 彩夏(3年)

富山県高等学校総合体育大会 陸上競技 女子やり投 第2位 澤井 彩夏(3年)

〈体操部〉

富山県高等学校総合体育大会 体操競技 女子個人総合 第4位 松田 奈々(2年)

富山県ジュニア体操選手権大会 女子A個人総合 第3位 松田 奈々(2年)

女子A平均台 第3位 松田 奈々(2年)

女子A段違い平行棒 第3位 松田 奈々(2年)

女子A跳馬 第3位 松田 奈々(2年)

女子A床 第3位 松田 奈々(2年)

富山県高等学校新人大会 体操競技 女子個人総合 第2位 松田 奈々(2年)

〈水泳部〉

富山県高等学校総合体育大会 水泳競技 男子50m自由形 第3位 小橋 孝征(3年)

富山県民体育大会 水泳競技 少年男子800mリレー 第2位 小橋 孝征(3年)

〈ボクシング部〉

富山県高等学校総合体育大会 ボクシング競技 ボクシングライト級 第2位 松村 秀樹(3年)

北信越高等学校体育大会 ボクシング競技 ボクシングBパートライト級 第2位 松村 秀樹(3年)

〈書道部〉

岐阜女子大学全国書道展 特賞 嘉藤 美帆(2年)

奨励賞 磯部 元樹(1年)

奨励賞 南木瑠璃子(1年)

富山県青少年美術展 書道部門 入選 演出 楓香(1年)

演出 楓香(1年)

〈その他〉

全日本中国語スピーチコンテスト富山県大会

スピーチ高校生の部 第1位 大門あかね(3年)

朗読の部 第2位 山田 悠加(3年)

暗唱の部 第2位 柿谷 将星(2年)

英語プレゼンテーションコンテスト富山県大会

スピーチの部 第3位 原 万君子(2年)

ロシア語スピーチコンテスト富山県大会 特別賞 織田 耕平(2年)

インターアクト表彰 インターアクト 堺 新菜(3年)

实用英語技能検定 2級合格 合田 卓弘(3年)

準2級合格者 36名

文部科学大臣“生涯スポーツ功労賞”受賞

スポーツエキスパート体操部コーチ 木原 勝之

この度県教育委員会の推薦により、文部科学大臣から“生涯スポーツ功労賞”をいただきました。大変身に余る光栄です。これも皆様方の温かいご支援によるものと心から感謝しています。伏木高校体操部は創部58年にわたり、明りを灯し続けている伝統ある部です。

私も伏木高校に昭和55年度から21年間勤務し、退職後11年間体操部を指導して来ました。県体操協会の一員として体操発展に微力ながらも努めてきました。また、社会体育の推進に昭和51年度から学校開放事業や総合型地域スポーツクラブの育成に携わってきたことなどが認められたものと思っています。

今後も県や伏木高校体操部の発展に尽くすよう努力をしますので、皆様方の温かいご支援とご協力を賜りますようお願いいたします。

編集後記

今年度も例年通り会報17号を会員の皆様にお届けいたします。本年は3月11日に東日本大震災が起り、未曾有の国難の中での発行になりました。本如意ヶ丘同窓会もこの影響で、本年度の関東如意ヶ丘同窓会の総会が延期となりました。また、母校の伏木高校もロシアへの海外研修が中止となり、ロシア・韓国・中国からの来校の日程も大きく変動しています。そうした中での同窓会の動向、母校の動向などを、この会報を通じてご報告いたします。一人でも多くの同窓生の皆さまに読んで頂くよう努力してまいります。御存知の同窓生の皆さまに、お声をかけて頂ければ幸いです。

①寄稿の件 本会報に掲載する原稿を募集致します。(学生時代の記憶に残る体験、経験談、思い出話等)皆様のご協力を頂き、より充実した紙面を目指していきたいと思っております。なお、原稿は1,000字以内でお願いします。

②会報広告の件 会報広告を募ります。皆様方のご協力をお願いします。

③如意ヶ丘グリーン会参加者募集 毎年4月第2土曜日

④学校のホームページと同窓会のメールアドレスです。ご利用下さい。

ホームページ <http://www.tym.ed.jp/sc354/> メールアドレス dousoukai@fushiki-h.tym.ed.jp

⑤来年度の定期総会を平成24年7月7日(出)に予定しています。

⑥同窓会の総会等が伏木高校のHP上にてアップしています。是非ご覧下さい。

受付窓口 富山県立伏木高等学校 事務局 TEL0766-44-1514 FAX0766-44-1707